

「向能代子ども食堂」のご紹介

1. プロフィール

向能代子ども食堂 代表 腰山 郁子

能代北高校卒業。歯科衛生士、介護支援専門員、食品衛生管理者資格。現在は専業主婦。

職歴；電電公社横浜市外電話局、鈴木歯科、塚本薬局居宅介護支援事業所等に勤務。

2. 設立の目的と経緯について

令和28年12月から開催、現在10年目。2月で通算104回開催。会員15名

当時は全国的な子どもの貧困が問題に。身近に生きづらさを抱えた若者の姿。規約づくりから。

向能代公民館を拠点、毎月第4土曜日、子ども無料・大人300円、限定50食

3. 活動事例と活動記録（写真等）

パンフ、チラシ、SNS等で発信

会費、補助金、寄付金等で運営。主な支出は食材、消耗品、会場使用料、講師謝金等

今年度は平均で一回に約60～70人の参加（スタッフ込）、子どもは約30人。

4. 団体のビジョンとミッション（使命）

子どもの身体・精神面の成長には地域の関りが必要。多世代との交流の場→居場所づくり

スタッフの高齢化、減少は課題だが、活動の継続こそが今の使命と考えている。

5. その他（お願い等）

フードバンクの機能はない→古古米や賞味期限寸前、日持ちしない食材は扱いに苦慮。

有志による団体で社会的な力も弱い。過度な期待に応えるのは難しい。

向能代子ども食堂の腰山郁子です。

子ども食堂の運営には、丹波先生をはじめ、さまざまな方々からの支援や協力を
いただいております。この場をお借りして感謝申し上げます。

向能代子ども食堂は、平成28年（2016年）12月からの開催です。

昨年12月で10年目に入りました。

私が子ども食堂を始めようと思ったきっかけはいくつかありますが

当時、全国的に子どもの貧困が問題となっておりました。

また、生きづらさに苦しんでいる若い人を身近で見てきました。仕事のトラブル
等で自分が悪いとか能力がない、生産性がないなどと思い込み社会に出ていく
ことがままならず社会と繋がっていないことに不安を抱えていた人。つらい現
実の中で生きることに疲れ果ててしまった若者もいました。

でも、生きづらさを抱えている若者を支援する仕組みもなく、まして若者を支援
しようとする人たちへの支援も見つけることができませんでした。

そんな時子ども食堂が話題になっていました。これなら私にもできるかもしれ
ないと思い込んでしまいじっとしてられない衝動に駆られてお金も組織もス
タッフもないないづくしでしたがまずは見切り発車で子ども食堂を始めました。
いまだにないないづくしではありますが、それでも近隣の農家の方、企業、歯科

医、内科医、知人、友人等本当に多くの方々の支援のおかげで続けられていると思っています。

地域づくりをしている方から、活動を続けるには多くの人の協力と周知も必要だよと言われ、会の規約が必要とのアドバイスを受けました。

規約では「能代市を中心とする地域で、年齢に関係なく多くの住民の居場所作りに資することとし、特に家庭等で十分な食事の提供を受けていない子ども、または孤食に陥っている子ども等への食事及び居場所の提供を優先的に展開し、福祉による地域づくりに寄与することを目的とする」と決めました。

あまりにも立派な規約で最初は気恥ずかしい感じがしましたが、さすがに10年もたつと、この規約があったからこそ続けてこられたと実感します。

能代市向能代地域センターを活動拠点とし、向能代小学校の学校区の子どもや大人・高齢者を主な対象としています。

原則として毎月1回、第4土曜日、開催時間は午前11時から午後2時まで。

大人は300円（材料費）子どもは無料（高校生まで）です。

限定50食の提供としていますが、お代わりをしてくれるので60～70食ほど準備します。お米は4升炊きます。特にカレーライス、豚丼などの時はお代わりしてくれます

コロナ感染拡大時には感染症対策を最優先として、お弁当の配布（テイクアウト）

ト)が主になりました。場合によっては延期や中止したこともありました。放課後児童クラブへカレーライスを鍋ごととご飯もジャーごと持って行ったこともありました。

どういう活動をしているのか写真で説明いたします。

※写真説明※

コロナ感染症の影響が大きかった3年間で、子どもを取り巻く環境や貧困度合いは悪化しました。子どもの生活と健康に与えた影響も大きく、小中学生の1～2割にうつ症状が現れたとの報告もあります。この物価高の影響もあり、子どもの教育や生活の格差はますます拡大傾向にあるようです。

年齢に関係なく誰にとっても人との関わりは心の健康を保つために重要です。特に成長期にある子どもには、社会との繋がりを意識できる居場所が必要です。ですから第三の居場所と言われる子ども食堂の存在は必要と思います。

いろいろな人たちとの交流を通じて新たな気づきや価値観を見つけることができる。このことがこれからの人生の選択肢を広げることにつながるはずです。

子どもの権利は守られて当たり前であり、守られるべきものです。

子どもたちが自己肯定感を持ち、身体・精神面の成長のために行政だけではなく、地域の大人たちが自分のできる範囲で社会全体で取り組むべき課題だと思います。

皆様にもスタッフ、または協力者、支援者として、もしくは参加者として関わっていただければとてもうれしいです。

向能代子ども食堂は、民間発のお母さんたちの団体です。

社会的な力も弱く出来ることに限りがありますが、参加してくれる子どもたちの笑顔や美味しかった！の声を喜びとして、私たちスタッフの居場所でもあり続けられることを願って、本日のお礼とさせていただきます。

皆様、本当にありがとうございました。